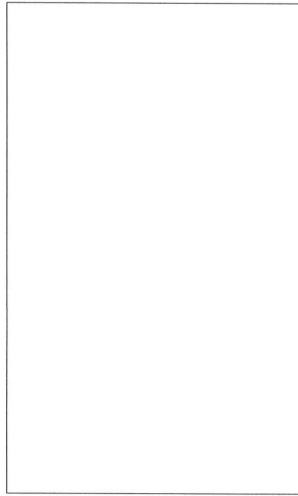


⑤ (旧記 金銀錢)

(表紙 題名なし)



〔宋書〕(一)十六の朱書抄法は後略

- 〔一〕 一、大判高直ニ付御尋有之書付差出候事
- 〔二〕 一、両替商売仕候者名前御調ニ付書上一件
- 〔三〕 一、両替商売仕候者人数六百人ニ御定被仰付、其外一件
- 〔四〕 一、新金銀通用可仕御触之事、其外一件
- 〔五〕 一、新金銀割合ニ付地代・店賃相滞窺書之事
- 〔六〕 一、借金銀・買掛等之儀御取扱無之旨被仰渡之事
- 〔七〕 一、地代取立員数請取方割合被仰渡之事
- 〔八〕 一、地代・宿代新金ニ而請取申度願之事
- 〔九〕 一、切金・軽目金通用御触之事
- 〔十〕 一、金銀引替割合御触之事
- 〔十一〕 一、地代・店賃三割又者三割半相増取立申度旨願并右ニ付御尋之趣返答書一件
- 〔十二〕 一、日済・車錢貸借之儀ニ付願人有之并返答書之事
- 〔十三〕 一、小金・小錢貸惣代願人有之并返答書一件

- 〔十四〕 一、米高直ニ付町々御救御払米御訴訟并前々御救米例書
- 〔十五〕 一、米高直打続候ニ付造酒御差留願一件
- 〔十六〕 一、困窮之者可書出旨被仰渡之事

〔宋書〕 差上申証文之事

一、私共儀両替錢商売仕候、大判高直ニ罷成御尋被為 遊候、如何様之儀ニ而御座候哉取扱不仕候、勿論他国江遣候儀曾而不奉存候、為後日仍如件

正徳二年辰三月二日

町三人
御年寄衆中様

〔宋書〕 覚

- 一、両替一通り商売仕候者 式人
- 一、外々商売おもに致両替交換候者 壹人
- 一、右同断 壹人

大伝馬町 松三郎
同塩町 七右衛門
同式丁目 久兵衛
同塩町 源四郎
通旅籠町久右衛門代り

大伝馬町壹丁目

長右衛門

同塩町

三郎太夫

伊勢町

又兵衛

一、右同断

壹人

甚五郎

戊閏十月廿一日
身上潰候断有之

一、両替おも二致外商売交候者

壹人

堀留町

宗兵衛

同月宗兵衛仕廻
親十右衛門与店
名改申候

下船横町

一、両替一通商売仕候者

三人

市郎兵衛

小兵衛

三四右衛門

同町

一、外々商売おも二致両替交候者

壹人

又兵衛

伊勢町

一、右同断

貳人

庄兵衛

忠兵衛

右之通町内致吟味書上申候、此外両替商売致候者壹人茂無御座候、以上

享保三年戊正月

名主

勘解由

右者二月四日樽屋差出ス

一札之事

一、銭商売一通り仕候者并外商売おも二仕、銭商売相交仕候者有之候ハ、書

上可申旨御触御座候ニ付委細吟味仕候処、当二三月御触之節書上申候

両替屋之外私共町内銭屋壹人茂無御座候、為御断一札差上申候、以上

大伝馬町

月行事

源右衛門

同塩町

同

茂右衛門

享保三年戊閏十月

右者閏十月廿二日樽屋江出ス

当二月書上候両替屋

一、両替一通商売仕候者

一、右同断

一、右同断

一、右同断

一、右同断

一、右同断

右之通御座候、以上

享保三年戊閏十月

通旅籠町

同

次郎兵衛

堀留町

同

市郎兵衛

下舟横町

同

小兵衛

いせ町

同

平三郎

名主

勘解由

大伝馬町老丁目長兵衛店

同町仁左衛門店

松三郎

堀留町市左衛門店

下舟横町源右衛門店

嘉兵衛

同町久兵衛店

同町家主

十右衛門

同町家主

同町家主

市郎兵衛

同町家主

同町家主

三四右衛門

同町家主

同町家主

小兵衛

大伝馬町

月行事

源右衛門

堀留町

同

市郎兵衛

右之通帳面一冊ニ認、閏十月廿三日樽屋江出入

一、外商売おも二仕兩替相交候者

一、同断

一、同断

一、同断

右之通御座候、以上

享保三年戊閏十月

下船横町
同 八右衛門

名主 勘解由

大伝馬町式丁目作十郎店
久兵衛

同塩町市右衛門店
源四郎

伊勢町宇兵衛店
忠兵衛

同町三郎左衛門店
庄兵衛

大伝馬町
月行事 作十郎

同塩町
同 六兵衛

伊勢町
同 平三郎

名主 勘解由

如斯帳面一冊閏十月廿三日樽屋江出入

〔采書〕
一三 一 覚

一、被仰渡御用之儀有之間、昨日兩替屋書出候町々名主之分不残、名主

無之町々者月行事、明廿五日四時 中山出雲守様御番所江可罷出候、
少茂遅々有間敷候、尤書上無之町々名主罷出候ニ不及候、以上

閏十月廿四日

町年寄
三人

右御配府ニ付 出雲守様御番所江罷出候処 能登守様 越前守様御立合
ニ而被仰渡候者、兩替屋員數六百人ニ御極被成候、此度書上之外之者、兩
替商売堅為仕申間敷旨被仰付、則惣名主連判之証文右御番所江御取被遊候

差上申証文之事

一、今度町中兩替屋員數六百人ニ御極被遊候間、書上申候兩替屋之外一切
兩替商売為仕申間敷旨被仰渡奉畏候、尤右六百人之外天秤者名主
共方江預り置可申旨奉承知候、然上者天秤等隱置取扱申候者、何様
之曲事ニも可被仰付候、為後日名主共証文差上申候、仍如件

享保三年戊閏十月廿五日

右兩替屋書上候節、樽屋江十月廿三日此方被招呼、支配中兩替屋人数付
之小札書付御渡請取候処、下船横町三四右衛門・市郎兵衛・小兵衛・又
兵衛共二四人有之候所、下船横町一通り之兩替屋三人与小札ニ有之候ニ付、
又兵衛を除残三人書上申候、通旅籠町久右衛門跡甚五郎義、先月廿日頃
より勝手ニ合不申候ニ付、右御断申書上不仕候処、御前様ニ而右之通被仰
付ニ付、又兵衛・甚五郎兩人天秤相改、立合封印致此方江預り置申候

覚

一、町中兩替屋之儀、吟味之上今度書出候兩替屋人数六百人ニ相極候間、此
外之兩替屋共之儀天稱名主共方江取上、一切兩替商売為致申間敷候、
勿論壳溜小壳等致候儀堅無用可仕候、若相背ニおゐてハ本人者曲事
申付、家主・五人組・名主共迄可為越度候、右之趣町中急度可相触
者也

戊閏十月

右御触之趣慥承届御請負申上候、町中家持者不及申、借屋・店借・裏々
迄為申間、此旨相守可申候、別而御定之外之兩替屋共江為申間、向後一
切兩替商売為致申間敷候、若相背者於御座候者何様之曲事ニも可被仰付
候、為後日町中連判之証文差上申候、仍如件

享保三年戊閏十月廿七日

御奉行所

右者喜多村ニ而写物、翌廿八日同所町中連判納

覚

一、今日樽屋殿ニ而被仰渡候者、堺町ニ居候六百人組之内兩替屋具服町江引
越候処、引越候御御訴不申上候ニ付、昨六日御内寄合ニ而御咎被
仰付候、自今右之類有之候ハ、重く御咎可被仰付候間、右六百人組
之内兩替屋他町江引越候者勿論、同町之内江引越候共御訴申上候上ニ
而引越候様、支配ノ兩替屋并町内江茂可申渡旨被仰付候事
享保十七年子閏五月七日

〔朱書〕
四 新金銀を以当戊十一月より通用可仕覚

一、金吹直被仰出段々出来、依而最前相触候通来亥年を限乾字金通用停
止ニ候、依之向後諸色相對を以直段相極候事者格別、献上・被下金
又者給金・借金・払殘金等都而前々より定来候員数ニ而通用候儀、
左之通被仰出候事

附乾字金ニ而何兩与申取やり候得共、当戊十一月より新金ニ而何兩
与申取やり可仕候、尤乾金通用有之内者新金之代り乾字金引替之
法を以遣候儀ハ勝手次第之事

一、金者正味之有目ニ吹直され足金ニ不及候故右之ことく出来候得共、
銀ハ正味不足多く依有之灰吹銀ニ而足銀被仰付候処、近年山々より
出候銀之出方にてハ式拾ヶ年余ニ而も成就計かたく候、依之金之通
向後銀有目ニ而吹直被仰付候、員数に随ひ通用候儀、是又左之通
被仰出候事

附り通用銀ニ而何枚何貫目与申取やり候得共、当戊十一月より新
銀ニ而何枚何貫目与申取やり可仕候、通用銀等通用有之内ハ新銀
之代りニ通用銀引替之法を以遣ひ候儀ハ勝手次第之事

一、乾字金引替ハ当戊年より来ル寅年迄五ヶ年ニ限るへし、元録金引替
者来亥年ニ限るへき事

新金銀引替之法

乾字金・元録金与新金引替之儀者唯今迄之通相違無之、慶長古銀并新銀
拾貫目ニ付

元録銀者式割半増

拾式貫五百目を以代之

但元録銀ハ正味之割合無相違故、唯今迄之割合

宝永銀者六割増 拾六拾貫目を以代之

中銀者拾割増 貳拾貫目を以代之

三宝銀者拾五割増 貳拾五貫目を以代之

四宝銀者三拾割増 四拾貫目を以代之

右之割合を以当戊十一月より来ル寅年迄五ヶ年ニ限急度可引替事

- 一、年貢并小物成・諸運上之類員数を定、元録九子年以前より納来候金銀、新金銀ニ而も唯今迄之員数相納へし、子年より納来候分者新金銀ニ而者半減たるへし、但子年より納来候品ニ而も古来之格を以納候分者新金銀ニ而員数無差別可相納事

- 一、元録九子年より以来請負ニ而直段相極候類、此以後茂員数を可用分ハ当時之直段積を以極直し可申事

- 一、年貢并小物成・諸運上・諸色共元録九子年より当戊閏十月迄其時々之直段積りを以相極候品々納残、又者諸色代物払残之類、乾字金百両之新金五拾両、通用銀拾貫目之所者新銀貳貫五百目可遣之事

- 一、献上并被下金銀古来より格式有之ニ付、新金銀ニ而茂差別無之、世上祝儀取かわし、或者礼物等遣候儀可准之事

- 一、借金銀者、元録九子年以前借用之返済残者、新金銀ニ而も其員数可返之、子年以來之借用者、金百両之所新金五拾両、銀拾貫目之所者新銀貳貫五百目可相返事

- 一、給金銀者、元録九子年前後共無差別、新銀ニ而も唯今迄之員数たるへし、然共相對を以召抱候渡り奉公人之類ハ近來之給金銀員数を不可用、猶又相對次第たるへき事

附り元録九子年以來金銀位悪敷成つゞきかね候子細を以、別段ニ金銀を遣候類ハ元高新金銀ニ而遣候上者増金銀ハ相止可申事

- 一、合力等入用之積を以相極候類者、元録九子年以前相極候分ハ新金銀ニ而も其員数たるへし、尤子年以來相極候品ハ半減たるへき事

右之通堅相守、此外之儀者書面之趣ニ可准之、且又割合改候者宝永以來之銀計之事ニ候得共、新金銀錢兩替、或者売買之直段等ニ付紛失手立於仕者、急度御詮議之上可被所嚴科者也

戊閏十月

右御書出之趣、逐一承届御請負申上候間町中家持・借屋・店かり・下々召仕等迄早々為申聞、急度為相守可申候、若相背者御座候ハ、何様之曲事ニも可被仰付候、為後日町中連判之手形差上申候、仍如件

享保三年戊閏十月廿八日

右者喜多村殿ニ而写物、町中惣連判帳同晦日同所江差出ス

〔^{〔朱書〕}五〕 戊十一月より新金銀割ニ成、地代・宿賃相滞候ニ付南北年番窺書

新金銀通用被仰付候ニ付、地代・宿賃之儀乍恐奉窺候

- 一、慶長金吹替被仰付元録金ニ罷成候而、金壹両ニ凡錢三貫八九百文より四貫貳百文迄、乾金ニ罷成売買仕候地かり・店かり・諸商売人之儀者、元録金乾金之割を以商売仕候故相障候義も御座有間敷与奉存候、家持之儀者子年以前之直段ニ而地代・宿賃取申候而町御役相勤罷在候、

此度奉伺候者元録九子年以後、元録金乾金之割を以増候地代・宿賃を引下ケ申候而、元録九子年以前慶長金ニ而相極候直段ニ返し、新金銀ニ而請取候様仕候而、如何可有御座候哉奉伺候

一、元録九子年以後之御拝領地新町屋之儀者、古來之格式無御座候ニ付、隣町之積りを以地かり・店かり・地主共相對仕候様是又奉伺候
右之趣乍恐奉伺候、去暮より至当春地代・宿賃取遣り相濟不申、町中家持共迷惑仕候、乍恐奉伺候、以上

享保四年亥二月

惣町中
名主共

〔朱書〕
六

一、惣而借金銀・買掛り等之儀、人々相對之上之事ニ候得者、自今者右之出入奉行所ニ而取扱無之筈ニ候、乍然欲心を以事を工ニ候出入者、不届之訊糺明之上、御仕置可申付候間可訴出候事
一、右之趣ニ候得者只今迄奉行所ニ而取上日切等申付、段々濟寄候金銀出入も向後奉行所ニ而不申付候間、無滯急度返弁可申候
右之趣可相心得事
亥十一月

右之通町中可触知者也

右御触之趣慥承届御請負申上候間、町中金銀出入ニ付 御公儀ニ成候者者不及申、自今家持・借屋・店借・地かり・裏々召仕等迄為申聞、急度

相守可申候、為後日町中連判之手形差上申候、仍如件

享保四年亥十一月十三日
御奉行所

右者当日喜多村ニ而写物、翌十四日連判納メ

〔朱書〕
七

一、亥三月六日 出雲守様御内寄合江惣名主被召呼、右地代取立之儀、元録九子年以前より相定置候而、元ノ字金・乾字金ニ而も右員數請取候者者、此度新金ニ而も右員數請取可申候、子年以來元字金・乾字金之割合を以地代上候者者、相對を以相定請取可申由被為仰付候、若店之者得心不仕候者有之候ハ、忝人ノ召連可罷出旨被仰付候

〔朱書〕
八 覚

一、金銀吹直被仰付候以前慶長金之節、金壹兩ニ付錢五貫文より五貫壹貳百文迄兩替仕、元録金ニ罷成候而凡金壹兩ニ付三貫八九百文程、商売仕諸商人之儀者慶長金・元録金・乾金之割合ニ而商売仕來候ニ付、相障候儀も無御座候様奉存候、町中家持之儀者元録九子年以前之直段ニ而地代・宿賃取候而町御役・諸事相勤申候ニ付困窮仕候、此度新金銀被仰付候ニ付町中奉願候者、先年より何貫何百文与錢ニ而相極メ唯今迄取來候者、錢ニ而無高下先年之通弥請取可申儀与奉存候、銀ニ

而何拾何勿与相極申候者、銀ニ而請取申候者当分銀払底ニ御座候ニ付、地かり・店かり迷惑可仕候間、兩替六拾目之割合ニ而金錢ニ相定請取可申候、尤万二元録九子年以後地代・宿代直段増候町も御座候ハ、此度引下、元録九子年以前慶長金ニ而相極申候古來之直段返し、新金ニ而請取候様仕度奉存候

一、元録九子年以後之御拜領地新町屋之儀者古來之格式無御座候ニ付、隣町之積を以相對仕請取候様奉願候

右之通乍恐奉願候、去暮より当年ニ至地代・宿代之儀兎や角与申我儘成儀申取やり相濟不申、家持共至極迷惑仕候ニ付、以書付御願申上候、以上

享保四年亥四月九日

町中
惣名主

右者当月六日奈良屋殿江年番名主中被招呼、町中地代・宿賃金之儀差滯候ニ付、惣名主致寄合存寄書付差出候様被仰付候ニ付、同九日天神下仁左衛門方ニ而惣寄合有之、右之通願書相認年番中同日奈良屋殿江持參致候、尤年番廻状元田所平藏殿より參候

〔未書〕
九

一、慶長古金之内切レ金又者金目輕く成り候茂有之、通用差支候由ニ候旨、向後者小判之内三分迄之切レ沓ヶ所、金目三厘迄輕キ分并沓分判も少々疵目輕く候共無滯通用可仕候、右之分ハ上納金ニも後藤包ニ包申筈ニ候、勿論新金も右ニ可准候、此外只今迄之通を以金座江も差遣し直させ可申候、若通用之切金・目輕キ金より歩銀取候者於有之者急度曲事可申付候

右之通町中江可触知者也

丑六月

右御触之趣慥承届候間、町中家持者不及申借屋・店借・裏々迄為申間、此旨急度相守可申候、為後日町中連判之証文仍如件

享保六年丑六月四日

御奉行所様

町中惣連判樽屋納メ

右御書付之通町中相触候上、拙者共別而此旨相守可申旨被仰渡奉畏候、若右之趣相背候ハ、如何様ニも可被仰付候、為後日証文差上申候、仍如件

享保六年丑六月

大伝馬町壺丁目長兵衛店
兩替屋 松三郎
同町仁左衛門店 加兵衛
同式丁目清三郎店 七兵衛
同町作十郎店 久兵衛
同塩町市右衛門店 源四郎
堀留式丁目源右衛門店 市郎兵衛
同町久兵衛店 三四右衛門
同町十兵衛店 十右衛門

伊せ町卯兵衛店

忠右衛門

同町三郎左衛門店

庄兵衛

右者引替番組々之両替屋共、年番石川勘兵衛殿ニ而銘々判形取置被申候事

〔朱書〕
「十一」

一、元文元年丙辰五月十二日写物御触ニ而金銀吹替御触、引替者六月

十五日より百両持参仕候得者百六拾五両ニ替ル、銀拾貫目ハ拾五貫目

ニ代ル、平生通用者如常百両を百両之取替、引替之節計増歩、依之

貸借共拾両之処拾両返済、但引替百両より内者無之

〔朱書〕
「十一」 乍恐以書付御願申上候

一、老番組名主共申上候、近年町中地代・店賃惣而相滞、地主共迷惑仕

罷在候、先年乾字金与只今迄之通用金御引替之節、地代・店賃之儀

通用金ニ而差出可申候之処、地借・店借之者共出シ兼候ニ付、其節

三割四割宛用捨仕、其後も少々宛引下請取来候、然ル処去年以来銭

其外諸色格別高直ニ罷成候上、町役等ハ銭ニ而諸払仕候故過分ニ相掛

り、引下来候地代・店賃積ニ而者地主共渡世成兼難儀仕候、依之少々

宛地代割増之儀先達而家主共より店借之者共江申渡候処、承知之由

ニハ申候得共一向相滞、常々済兼不申者共迄一同ニ差出不申様罷成

り、家主共難儀至極仕候、ケ様ニ御座候而者家屋敷沽券茂下直ニ罷成、

其上少々之家屋敷所持仕、地代・店賃を以漸々渡世仕候者数多御座候処、是等之類一向差支渡世ニ難儀仕候、依之拙者共方より急度申渡呉候様家主共申候ニ付、此度三割又者三割半宛相増差出候様申渡奉願候、益前も近寄候ニ付、旁以早く申渡候様仕度奉存候、若此儀ニ付店之者共御願ニ罷出候儀も有之候ハ、何分ニも地主共相統仕候様御慈悲奉願候、以上

元文二年巳六月

大伝馬町

名主

勘解由

安針町

吉右衛門

本両替町

八郎右衛門

鉄炮町

惣 八

品川町

六右衛門

新材木町

吉左衛門

本石町

孫兵衛

龍閑町

平次郎

北新堀町

甚四郎

三河町

五郎兵衛

本舟町

太郎兵衛

新革屋町

市郎兵衛

御奉行所様

室町
助右衛門
本町三丁目
文左衛門
本銀町
太郎右衛門
小網町
伊兵衛

元文元年

一、辰十月廿四日奈良屋殿江被招呼、地代・店賃之儀乾字金より古金江御吹替之節、五割三割宛引下ケ何程宛請取候哉、八年以前御触有之節何割引下ケ何程宛請取候哉、并錢借之分ハ前々引下候儀も有之哉、右引方割合之儀只今書付差出候様被仰渡候間、則寄合、左之通返答書差出申候

以書付申上候

一、町々地代・店賃先年引下候儀御尋御座候、乾字金を古金ニ御吹替之節家持共相對を以五割三割程宛引下申候、然ル処七年以前戌年より公役銀式割方御引被成下候ニ付、是ニ准シ地代・店賃之儀も又々式割程引下請取来申候、右引方割合左ニ申上候

一、乾字金壹両之所古金ニ而兩可請取処、左候ハ、乾金貳兩ニ相当、店々之者難儀仕候ニ付、乾字金壹兩之内五割引候而古金三分請取来申候
一、乾字金壹兩之処三割引候而古金三分六匁請取来申候
一、七年以前戌年右之内式割引候而古金三分之所古金貳分ト六匁、并古

金三分六匁之所古金貳分拾匁八分請取来申候

右之通町々凡積勘定合書付差上申候、其外錢借・地代・店賃之儀者、先年より錢相場高下ニ不構、壹貫文之所ハ壹貫文請取来申候、当時錢相場高直ニ御座候得共、只今ニ而ハ右錢壹貫文之地代者金壹分より高直ニ相当り申候得共、左候得ハ錢極極分者当時増引仕候儀曾而無御座候、以上

辰十月廿四日

弥左衛門町
名主 伊左衛門
靈岸島銀町
孫 市
神田旅籠町
善左衛門
大伝馬町
勘解由
新右衛門町
孫左衛門
通壹丁目
藤次郎
本舟町
太郎兵衛
横山町
喜左衛門

〔朱書〕
十二 乍恐以書付申上候

一、根津宮永町月行事理左衛門申上候、三四年以前町々夥敷日なし・車錢貸借之者御座候ニ付、場末之町々輕キ者共日掛錢相滞候ニ付及出入身代相仕廻、又者欠落仕候者多御座候、此儀者錢壹貫文借請候節、金壹兩之証文入置、毎日壹貫文ニ付三拾貳文宛三十六日ニ壹貫貳百

文可相濟之処、三四日茂掛ケ錢相滯候得者、証文之面ニ而相掛り候ニ付、三四貫文も借り候者大金ニ罷成候故、無是非欠落等仕候者多御座候、尤掛ケ錢輕キ様ニ相見ヘ輕者共之為ニも相成候様御座候得共、正月金拾兩借シ出、十二ヶ月目ニハ金百兩程ニも相成候ニ付、中々日濟錢無滯掛統候者無御座候、依之外之借金・買掛ケ等ハ右車錢ニ被追相濟不申候ニ付、自然与平生貸借無之様罷成、輕キ者困窮仕候様乍恐奉存候事

一、右日濟・車錢段々掛ケ濟、殘錢式三百文御座候ニも証文之面ニ而相掛り候ニ付口論仕、其我歳を以御訴訟申上、証文之通取立候類も多御座候様及承申候、尤請取出不申儀者借り主相對ニ而借り請候得者御吟味ニ奉達可申上様茂無御座候、借り請候者共も尅貫文借、商元手ニも致候ハ、勝手ニも罷成可申候得共、多分ハ当日尅貫文之入用御座候処江、前後証文等之無差別茂借請、其日より掛ケ錢相濟候儀ニ御座候間、何様ニ相働候而も掛ケ錢届不申候ニ付、尅貫文之内五百文相濟候得者又候切直シ元利七百文引落、式百六拾四文手取証文改申候、借り来候者都而右之致方ニ御座候、三四度も切替仕候得者借シ主方より出錢者少も無御座候様罷成申候、右之通御座候間、出入ニ取懸り候節双方家主・五人組・名主方ニ而吟味仕、平生借金銀ニも無之日濟・車錢ニ而御座候ハ、有躰之借シ高ニ而相掛り、尤借出候節も家主方江相届候様被為 仰付被下置候ハ、借請候輕キ者共之御救ニも罷成難有奉存候、以上

元文四年未十一月

御奉行所様

月行事
利左衛門

右者翌申正月七日樽屋ニ而御渡被成候御書付ニ而、右ニ付返答書左之通

根津宮永町月行事利左衛門日濟・車錢之儀、別紙訴状を以御願申上候ニ付御尋ニ御座候、依之存寄左ニ申上候

一、日濟・車錢与申儀、利左衛門申上候通極貧者共借請、渡世之元手ニも仕候得者、商等ニも取付申候様ニ御座候得共、畢竟当分之難儀相凌申者も御座候得共、殊之外之高利其上日々ニ被取立候得者却而困窮仕、無是非及出入又者欠落等仕候者多御座候、証文之儀も利左衛門申上候通御 公儀様不恐当人相對与ハ乍申、増金証文或者宛名并年号等無之証文ニ而借、借り仕後ニ書入候類も有之候様奉存候、依之日濟・車錢并上家貸兩様之儀者御停止ニ被為 仰付被下置候ハ、輕キ者共当分難儀之様ニ者可有御座候得共、後々者勝手ニも能、出入等薄罷成可申与奉存候、兼而御訴訟申上度乍恐奉存罷在候、併利左衛門申上候家主方江相届候儀、大勢之儀ニ御座候得者悉往届申間敷与奉存候、勿論御裏書之上ニ而名主共立合吟味仕候儀者只今迄致来候得共、証文を以相掛、借主方者無証抛之儀故相分り不申候ニ付、只今迄貸置候分者其通被差置候而、自今右躰之貸借御停止被為 仰付被下置候様仕度奉存候、以上

元文五年申正月十三日

年番
名主共

右樽屋江出ス

〔朱書〕
「十三」 乍恐以書付御訴訟申上候

一、晝町家主小兵衛申上候、去未十二月五日小金小錢貸壹貫文ニ付一日三文宛之利息ニ而三十日切、金壹兩ニ付一日八文宛之利息、尤三ヶ月貸・十二月貸右之割合を以貸度与申者より利息之内三分一取立、為冥加壹ヶ年ニ金貳百兩上納仕、金三拾兩以下手形貸金之惣代被為仰付被下置候様御訴訟申上候得者、早速御取上被為成難有奉存候、同八日樽屋江被召出罷出候処、年番名主江相尋置候間返答次第可被仰上与被申渡候、当正月十八日御内寄合江罷出候様被仰付奉畏候、罷出候処日済同前ニ而殊ニ高利ニ付障ニ罷成候由御意被為遊候、早速御返答可申上候得共奉恐入候、唯今迄方々三十日貸・三ヶ月貸・十二ヶ月貸倍証文為致貸附申候、其日過之者及餉命申候間、家財・商売物・建具・上家書入借調稼候得共利まけ仕、御公辺ニ罷成り至極迷惑仕候様奉存候、私共願之儀者手前より貸出与申儀者一切不仕、只今迄貸来候者之利を下ケ、其上利足之内三分一取立、済兼候者江私方より相済仕合証文為致、身上相立申候節、少宛も取立可申候、依之貸方之儀者壹貫文ニ付、一日ニ利を三文与して五日目〱ニ取立申候、金壹兩より三兩迄者利八文宛之割、金四兩より六兩迄ハ利七文宛之積、金七兩より以上者利六文宛之積ニ而、三ヶ月貸・十二ヶ月貸借方勝手ニ相成候様申付、又長煩仕候者快氣次第為取立可申候、依之御 公辺ニ一切仕間敷与申上候、為冥加角田川定湊金壹ヶ年金百兩、兩度ニ上納可仕候間被為 聞召分御吟味之上金三拾兩以下手形貸金之惣代町御触流共、御 慈悲以被為 仰付被下置候ハ、難有奉存候、以上

元文五年申正月廿三日
御奉行所様

晝町家主
願人 小兵衛

町中裏々其日過輕者共之為、小錢貸之名付、錢壹貫文ニ毎日三文宛利息三十日ニ取立申候御願、八九年以前治兵衛与申者奉願候処被仰付小錢貸所と看板を打借来候処、所々ニ而日貸・月貸・上家貸仕候者有之ニ付、二重三重借仕候故御 公辺ニ罷成候、依之右次兵衛・小兵衛兩年之者先年御願申上候通之割合を以錢貸・金貸仕度候ニ付、惣代ニ被仰付候様御願申上候間、相障儀も無之哉与御尋ニ付、左ニ申上候

一、小錢貸之儀、八九年以前御願申上被仰付看板を出貸候旨願人共申上候得共、左様被仰付候儀只今迄及承不申候、殊ニ此度者錢貸并金三拾兩迄之手形貸惣代仕度段御願申上候、此儀被仰付候ハ、相障儀多、世上之差支ニ可罷成哉与奉存候、其上壹貫文ニ付毎日三文宛之利息ニ而者壹ヶ年ニ積候而者壹貫文余之利足ニ相見へ申候、左候得者殊之外高利ニ御座候、是以日済同前不埒之貸方ニ奉存候、先達而も申上候通日済・上家貸等其外不相成高利貸有之候得共、自然与難儀仕候者も出来、出入も多罷成候間、右躰之不埒貸借自今仕間敷旨、御触流有之候様仕度奉存候、御尋ニ付以書付申上候、以上

未十二月 年番
名主共

右返答書之趣未年年番方之趣樽屋江申上候得者、口上ニ而申上相済候

乍恐以書付追御訴訟申上候

一、豊町家主小兵衛申上候、当正月廿三日小金小錢貸之惣代願之御訴訟申上候処、御吟味可被為遊旨御意被為遊難有奉存候、当月廿六日当御役所江被召出、御吟味之上名主中江御尋可被下候由御意被成、右願之儀只今迄之通被為差置候而者、少之金子之出入ニ茂貸方之者共者家主江預ケ置、御公辺仕候様奉存候、左候ハ、借り方之者共家主方ニ預り候内者渡世難成、其上店賃等も相滯迷惑至極ニ奉存候、利足之処金貸之分者、利惣躰壹文宛引下為借付可申候、是以高利之様被為思召候得共、早速引下候而者貸方無数罷成候得者借方之者当前之難儀仕候、年を積利足引下申候様可仕候間被為聞召訊、金三拾兩以下之手形貸金之惣代・町御触流共、御慈悲を以被為仰付被下置候ハ、難有奉存候、以上

元文五年申二月廿九日

豊町家主
願人 小兵衛

豊町家主小兵衛小錢貸惣代之御願申上候者、去末年茂御訴訟申上御吟味之上御取上無之ニ付、又々此度利錢引下錢壹貫ニ付一日三文、金壹兩ニ付八文宛、四兩より六兩迄ハ七文、七兩以上者六文宛之積、五日目宛ニ利錢計取立申候ハ、借方之者共勝手ニも相成可申段御訴訟申上、先達而御吟味御座候ニ付、相障可申段御返答申上候処、又々利錢壹文宛惣躰引下可申段御訴訟申上候ニ付御吟味ニ御座候、左ニ申上候

一、小錢貸之儀、此度利錢段々引下貸付申候ハ、借り方之者共大勢之勝手ニも相成、其上質物も無之、金三拾兩迄証文貸仕候得ハ借貸自

由ニ相成、殊ニ出入ニも仕間敷段小兵衛御訴訟申上候得共、小兵衛儀者貸候ニも無御座、只今迄之日濟錢貸主共より為貸候由、左候ヘハ小兵衛世話仕候共、夥敷儀ニ御座候得者中々行届申間敷候、只今迄之日濟・上家貸之者共同事ニ不埒之貸方之様ニ奉存候、日濟・上家貸之儀者先年より御停止ニも御座候処、不輕御上をも近年猥ニ罷成り、筋惡敷出入大分多罷成候ニ付、先達而も年番名主共より御停止之御願申上候、只今迄借金利足之儀、及出入候得者高利之分ハ拾五兩壹分之積を以被仰付候儀ニ御座候、然ル処此度願人申上候通ニ而ハ、壹貫文ニ付一日式錢宛之利ニ而者七割五分之利足ニ当り、金子貸之儀者凡拾割余ニも相見申候得者、殊之外高利ニ罷成候、只今迄之利足与違高利之金子御免ニ罷成候得者、外之借金或者質物等之利金迄混雜仕、借請候者之為還而大勢之障ニ罷成可申与奉存候、畢竟唯今迄金子借引之儀者相互一々相對を以致來候儀ニ御座候ヘハ、返濟之節も貸主了簡を以相濟來候儀ニ御座候処、此度 御上より御免有之惣代を奉願候而借付候而者取立も嚴敷、末々ニ至御權威ケ間敷罷成、自然与難儀仕候者多出來仕、出入等も可有御座様奉存候、御尋ニ付以書付奉申上候、以上

申三月 年番 名主共

〔朱書〕
「十四」 乍恐以書付御訴訟申上候

一、近年米高直ニ付惣町中御救之儀、前方者御米拾万俵、代金百俵ニ付三拾五兩之御直段ニ而年賦ニ差上、御拝借被仰付被下候様御訴訟申

上候所、御取上無御座町中之者共迷惑奉存候、依之先達而数度申上候通御米御払被為成被下候様奉願候、御米員数代金上納之儀者如何様共御意次第差上可申候、至当年弥米高直ニ而迷惑仕候、米高ニ御座候ニ付諸色高直ニ而町中困窮仕罷在候、御米御払被為成下候ハ、米下直ニ罷成、諸色共下直ニ可罷成与乍恐奉存候、御直段之儀并代金上納之儀者御下知次第当座ニも指上可申候、然上者米下直ニ罷成候程、御余慶御払被為仰付被下候様奉願候

先年御米御払被為成被下候覚

一、五十三年以前亥年米六斗三升程仕候時分、御米壹石六斗之御直段ニ御払被下候

一、四十六年以前午年米六斗程仕候時分、御米壹石之直段ニ御払被成下候

右之通以御 慈悲御救被為成被下候者難有可奉存候、以上

惣町中

名主判形

元録十二年卯二月

御奉行所様

別紙覚書

一、四十四年以前酉年大火事ニ付、町中江銀壹万貫目被下置、小間ニ付三百拾匁余頂戴仕候

一、翌戌年火事ニ付、銀五千貫目被下候、小間老間ニ付百八拾目程宛頂戴仕候

一、二十五年以前卯年米高直ニ付、為御救御米四万俵拜借被仰付候、代

金四年過五年目未年より酉年迄三ヶ度ニ上納仕候

一、十九年以前酉年米高直ニ付

御米三万俵内 壹万五千俵被下置候
壹万五千俵拜借、五年過六年目寅年上納

一、十八年以前戌年火事ニ付、

御米貳万俵内 三分一被下置、三分二拜借、
代金年内上納被仰付候

右之通前々茂御救被為成被下候、以上

元録十二年卯二月

右者二月廿日 保田越前守様江名主共御呼、願書ニ名主不残判形致差上候様被仰付、本所長福寺寄合名主共判形調、廿一日晚 越前守様江助右衛門・三右衛門・彦市・道達同道致差上候、尤 松前伊豆守様江も上ヶ候様ニと御意ニ付直ニ差上申候、御支配町七百町程有之

〔朱書〕
「十五」 覚

一、御当地江上方より下り酒并田舎酒・地造り酒壹ヶ年ニ五六拾万石程宛ニも可有御座候様及承申候、右之積を以相考申候得者、及承申候通諸国ニ而都合酒ニ造候米高凡壹ヶ年ニ貳百万石余ニ而可有御座候様奉存候、以上

三月十七日

惣町中
名主

如斯元録十五年午三月十七日 松前伊豆守様江差上候

乍恐以書付奉願候御事

一、度々御訴詔申上候通、米高直ニ付町中何共迷惑仕候、前々高直成義も御座候得共半年か沓ヶ年程之内ニ而、翌年者格別下直ニ罷成候、此度之儀者久々打統高直ニ御座候、一兩年以前町中雜穀・糧物朝夕用申候、其上去冬町中酒用不申候様御触被成下候ニ付、江戸廻シ仕候諸国造酒も旧冬者穀高減申候様及承申候、尤御当地造り酒過半減申候、旁以米之余慶ニ罷成下直ニも罷成与奉存候処、今以高直ニ御座候事

一、年々次第商事茂減申候、殊ニ壳掛御屋敷方御払無御座候ニ付段々差詰り候故宿賃等も相滞、其上相統難成立退候者共多御座候間、明店も数多御座候ニ付、家持并店借・裏々之者共迄段々困窮仕候、唯今迄之通御座候得者、弥相統難成者共多可有御座候様奉存、迷惑至極奉存候事

一、此度奉願候者、酒造候儀者諸国共一兩年御停止被成下候様奉願候事
右申上候通段々及困窮迷惑至極奉存候、御慈悲奉願候通被為仰付被下候ハ、難有奉存候、以上

元録十五年午三月十七日

御奉行所様

惣町中

名主

一、此度被仰渡候、至極困窮仕一日之渡世も難成程之者有之候ハ、書上可申旨被仰渡候ニ付、町内借屋・店かり・裏々迄銘々入念吟味仕候処、左様之者老人茂無御座候、為御斷一札差上申候、以上

享保六年丑五月廿五日

大伝馬町

月行事

作十郎

同塩町

源左衛門

通旅籠町

又左衛門

堀留町老丁目

伝右衛門

同式丁目

久兵衛

伊せ町

嘉右衛門

名主

勘解由

右之通樽屋江差出ス

〔朱書〕

「十六」 至極困窮之者有之候ハ、人別帳仕書上可申上旨樽屋ニ而被

申渡候ニ付、返答書左之通